

2-5. 便益の評価方法 (モニタリング方法) を特定する

住民便益モニタリングでも同様の傾向が見られる

定性的および「参加型手法」による社会調査の専門性におけるコミュニティ関与の利点と不利点

	+	-
①データの質	・社会的・制度的変化 ・ステークホルダーの認識 ・社会的な問題 (公平性、ジェンダー、因果関係など) を把握しうる コミュニティの関与が重要になる	バイアス、主観がつきまとうのは定量的 手法と同様
②コスト		厳格なほど費用と時間がかかる
③調査期間		現地住民に多大な時間
④新たな脅威の特定	無形、予期せぬ結果の特定	
⑤コミュニティのデータ所有意識	-	-
⑥非専門家へのトレーニング		必要 (熟練者、研究チームが必要)

具体的な調査法を説明します (SBIA-Part 2 p. 21をもとに作成) 13

2-5. 便益の評価方法 (モニタリング方法) を特定する

住民便益の調査法

手法名	PRA Participatory Rural Appraisal	PIA Participatory Impact Assessment	SLF Sustainable Livelihoods Framework
目的	■ コミュニティ基本情報把握 ■ 住民認識の把握	■ コミュニティに起きた変化を見る ■ PRAにもとづく影響評価	■ 持続可能な生計を5~6つの資本指標によって分析 ■ 「参加型手法」と併せての実施を推奨 (SBIA Part 2, p.35)
調査法	便宜上「参加型手法」とします		
調査法	定量的・定性的インタビュー 対象：世帯、代表者、グループなど 形式：半構造化、質問票、参加型地図作成		
収集データ例	世帯数、収入源、社会政治面、自然資源、地理、住民の意見・苦情	変化の詳細、プロジェクトに起因する変化、人々の生活の変化など	指標にもとづく情報例) 金融 = 収入、雇用 人間 = 知識、労働環境 情報アクセス = ネット

時間がかかるが必要 (第2回委員会報告資料P.16に追加) 14

2-5. 便益の評価方法 (モニタリング方法) を特定する

生物多様性便益の調査法

手法名	PSR (Pressure-State-Response) Framework
目的	保全目標に対するプラスとマイナスの影響も一緒に監視
調査法	人間の環境への[圧力P]を特定し、望ましい[環境S]に戻すための[対策R]の実施を示す 例) P=圧力 (森林火災) S =状態 (森林面積や動植物生息数) R=対策 (火災予防活動)

「最も一般的な手法」 (SBIA Part 3, P.31) (第2回委員会報告資料P.17から抜粋) 15

3. 事例11件の分析 モニタリング実施状況

番号	ID	国	モニタリング実施者				モニタリング分析指標・方法	
			事業者	外部専門家	コミュニティ	コミュニティ	生物多様性	
1	1866	中国	綿工業	林業局、炭素コンサル	○	PRA	PSR サンプル地鳥類個体数調査 (スタッフ**・住民有)	
2	2087	中国	農林会社	林業局 研究所	○	PRA	サンプル地生息調査 (住民聞き取り有)	
3	2481	パナマ	林業会社 (FSC取得済み)	NGO、大学	○	PIA	サンプル地生息調査 (カメラトラップ、ドローン)	
4	1832	中国	林産環境会社、炭素コンサル	林業局	○	PRA	サンプル地生息調査 (生物多様性指数)	
5	1895	中国	林産環境会社、炭素コンサル	林業会社	○	PRA	サンプル地生息調査 (生物多様性指数)	
6	1969	ブラジル	農家、専門家	大学	○	SLF	サンプル地生息調査 (住民聞き取り有)	
7	2512	コロンビア	林業会社	林業会社 環境コンサル	○	SLF	サンプル地生息調査 (生物多様性指数、 参加型地図作成)	
8	994	インド	炭素コンサル	研究所	—	任意の調査 (スタッフ情報収集)	サンプル地植林木調査 (スタッフGPS計測)	
9	2338	ケニア	炭素コンサル	研究所	—	任意の調査 (スタッフ情報収集)	サンプル地植林木調査 (スタッフGPS計測)	
10	2370	中国	市立森林科学研究所	—	○	PRA	PSR サンプル地鳥類個体数調査 (スタッフ観測有)	
11	1663	ブラジル	炭素コンサル (FSC取得済み)	—	○	SLF	サンプル地生息調査 (スタッフ・住民の調査補助)	

任意*：分析手法の明示がとくになかった、 スタッフ**：事業者を含む 16

3. 事例11件の分析

モニタリング実施者のパターン

パターン	住民便益	生物多様性便益
1 事業者 + 外部専門家 + コミュニティ	5件 ex.) PRA, PIA調査	5件 ex.) 参加型動物生息地図、 生息情報の聞き取り、観察
2 事業者 + 外部専門家	2件 ex.) スタッフが農家の 収入記録の収集	2件 ex.) スタッフが観測、植林木 GPS情報の記録・収集
3 事業者 + コミュニティ	2件 ex.) PRA	2件 ex.) スタッフ・住民が内部専門 家の調査補助

17

3. 事例11件の分析

コミュニティ関与のパターン

パターン	住民便益	生物多様性便益
1 「参加型手法」で関与	6件 ex.) PRA, PIA調査	3件 ex.) 参加型動物生息地図、生 息情報の聞き取り
2 専門家の調査補助役		1件 ex.) 計測補助
3 コミュニティの関与は薄く事業者(スタッフ)が主に実施	2件 ex.) 農家の収入記録の 収集	4件 ex.) 鳥類観測、植林木GPS情 報の記録・収集
4 コミュニティの関与は薄く内外専門家が主に実施	3件 ex.) SLF調査	3件 ex.) 生物多様性指数、ドローン

18

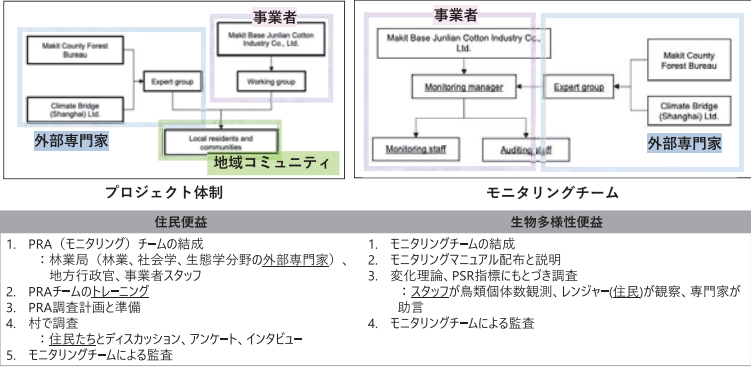
4. まとめ

- ◆専門性：事業者のみで専門性を確保するのは例外的
⇒ 外部専門家なしの事例は内部専門家のいる研究所がFSC認証済みの事業者
- ◆コミュニティ関与：さまざまな実施パターン
⇒ 関与が薄く内外専門家や事業者スタッフの役割が大きい事例もあった

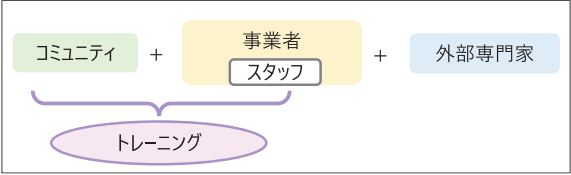
住民便益・生物多様性便益ごと、あるいは分析指標・方法ごとに
専門性 x コミュニティ関与のバランスをとっている

19

4. まとめ 例 中国(ID1866)綿工業会社のプロジェクトモニタリング方法



4. まとめ



コミュニティが関与することの利点は費用対効果だけでなく、
プロジェクト目標達成につながる広い意義もある
「生物多様性の目標に対する責任感、地域社会の力も高める」(SBIA-Part3. p.37)

ご清聴ありがとうございました